

仕事とは理想の人生を 実現させるためのツール。 なりたい自分を 自問自答してください。

心臓外科医
須磨久善

Hisayoshi Suma 須磨久善

すま・ひさよし ●1950年、兵庫県生まれ。心臓外科医。大阪医科大学卒。三井記念病院心臓血管外科部長、ローマ・カトリック大学心臓外科客員教授、葉山ハートセンター院長、(財)心臓血管研究所スーパーバイザーなどを経て、現在須磨ハートクリニック院長を務める。これまでに手がけた心臓手術は5000件以上。1986年には世界初となる胃大網冠動脈手術を開発。1996年には日本初のパチスタ手術に挑み、その後改良を重ね、成功率と患者の生存率を飛躍的に向上させた。テレビドラマ「医龍」や映画「チーム・パチスタの栄光」などの医療監修も担当。2012年には自伝的小説「タッチ・ユア・ハート」を上梓した。

医師になつてこれまで38年間、心臓外科手術の第一線で戦い続けてきました。つらく苦しいこともありましたが、それでもくじけなかったのは、医師になることが最初に思った原点がしっかりしていたからです。中学生のときに自分は将来どうなりたいたのかと考えたとき、幸せになりたいと思いました。出会う人に好かれて、感謝される人生なら幸せだなと思ひ、そのためにはどういう仕事がいいかなと考えたところ、医師ならたくさん患者さんを助けることによつて感謝されるからいいなど。それで医師になつたわけです。つまり仕事は自分の理想の人生を実現させるためのひとつのツールにすぎない。将来のなりたい自分を自問自答しつつイメージを固め、そこから逆算すれば高校時代にとつずけるべきかは自ずとわかってくると思ひますよ。

ただ、これから人生を歩いていく過程で、その時々で自分の希望通りにならなくて落ち込むこともあるかもしれません。でも、後から振り返るとあのとき思ひ通りにならなかったからこそ今の幸せな自分があるといふことも多々あります。実際、僕の人生もその繰り返しでした。それがわかってくると人生がすごく楽しくなります。思い通りにならないといふことは自分が想像できる範囲をはるかに超えたいことが起こる可能性があるわけですからね。だからその時々々の失敗や挫折でいちいち落ち込まなくてもいいんです。最終的に目指すゴールにたどり着けばいいわけですからね。